



里見八犬傳

第二輯

卷四



709  
9













拍く冷笑ひ九人の親より男児を奉る瓜面目とせざるは介存の武士  
の浪人が女の子を願うるふもや結城合戦に逃後を脊疵受りしこ  
懲りて軍とゆふの多きとんせりとあてかくまぐ戯氣が盡に飲るひ  
ふちの白後と賢ぶるも幾ととも合鍵嚙とりぬる。卻小里人ハ信  
乃を愛しく物故をせ送代は抱りてその母の心助けに其墓六夫婦ハ  
いづれも好むと限る。又羨しくもいづれも淫婦小石女ヨヌとゆふ鄙語よぬ  
漏れぬ。龜條四十ふあまのちで子どもむらもるりく夫婦頻小  
商量して只管養女を求るふ。その媒妁たるありて煉馬の家臣  
豊嶋左衛門が一族。某甲といふ女の女児今茲僅に二才ふなるあり  
煉馬平左衛門といひて。其甲といふ女の女児今茲僅に二才ふなるあり  
こゝその親の思とらひ四十二の二ツ子うまふ生涯不通の約束も永  
辨錢七貫文を齎し家系宜たりともあふ養女は遣さじといひり。

件の子、生れし目鼻がも愛らく。痘瘡もこの春の比のとから  
かふあまをふれは定は疵る玉よるんとむらもるりく去歳の春正月の  
らめよす。一八手つよとらふ二才児かゝる乳母ありといふとあま子  
かこれとあまの養ひと勸むる墓六龜條ハ笑に向き共小膝の進  
むんぞとあまの目尻注し壁が塩焼かゝる世は子の瘡とく永樂錢  
七貫文ハ些少はあま。目今和殿がりの語瀉るるのるふ素より望む  
所あり。とくあまのいと夫婦齊一應に件の男はとらるる果て遠く  
出くゆえの。かく五六日を経る程小その縛。竟に整に媒妁の男はとらる  
子の親と墓六と燈文をさるる。彼七貫文の共小女の子を犬塚へ贈り小  
けは龜條かぐ抱えとらる。まづこの類瓜うち熟視又指より蹴りて泣  
をも管つど引伸し。うちえとらる。蹴然とらる笑ひ三十二相揃ひ



と何れをさうくいふやと後と實ふこの子ハ掘出物なり。こはこいん人  
 さよまきと墓六のく懸くこよ九子と勿注おとせんと袂へ右の爪さ  
 へとく。さう出果子の花りとち。実るる親とさるぬ子も。有製口み  
 孝行して朝四暮三の猿轡銜さるごとく法止しけり。現頑るるのち。その  
 偏執のひりく。か物とさる名ははくま不傍いさ愛み満りて。他の嘲を  
 ちるよ。さる況く墓六龜條ハ妬いと名ハ番作夫婦。鼻と針。ぐん  
 とのこるひ。ふ件の養女を濱路と名つけく。分ふ過る綺羅を飾させ  
 身丸の遊山彼丸の物詰とく。下女又抱せ小廝又先を追せ。四十老女の  
 龜條さ。澤倉様の衣ハ襲ねて月の中まへく。遍とる。出あられふ日と  
 費。残を費し。嘲をさるごとく加以。か女児の髪置。細解とる。年ま。身大  
 十倍の美服。被せて健るるを。この肩ふの。城埴。清を假托。彼此人

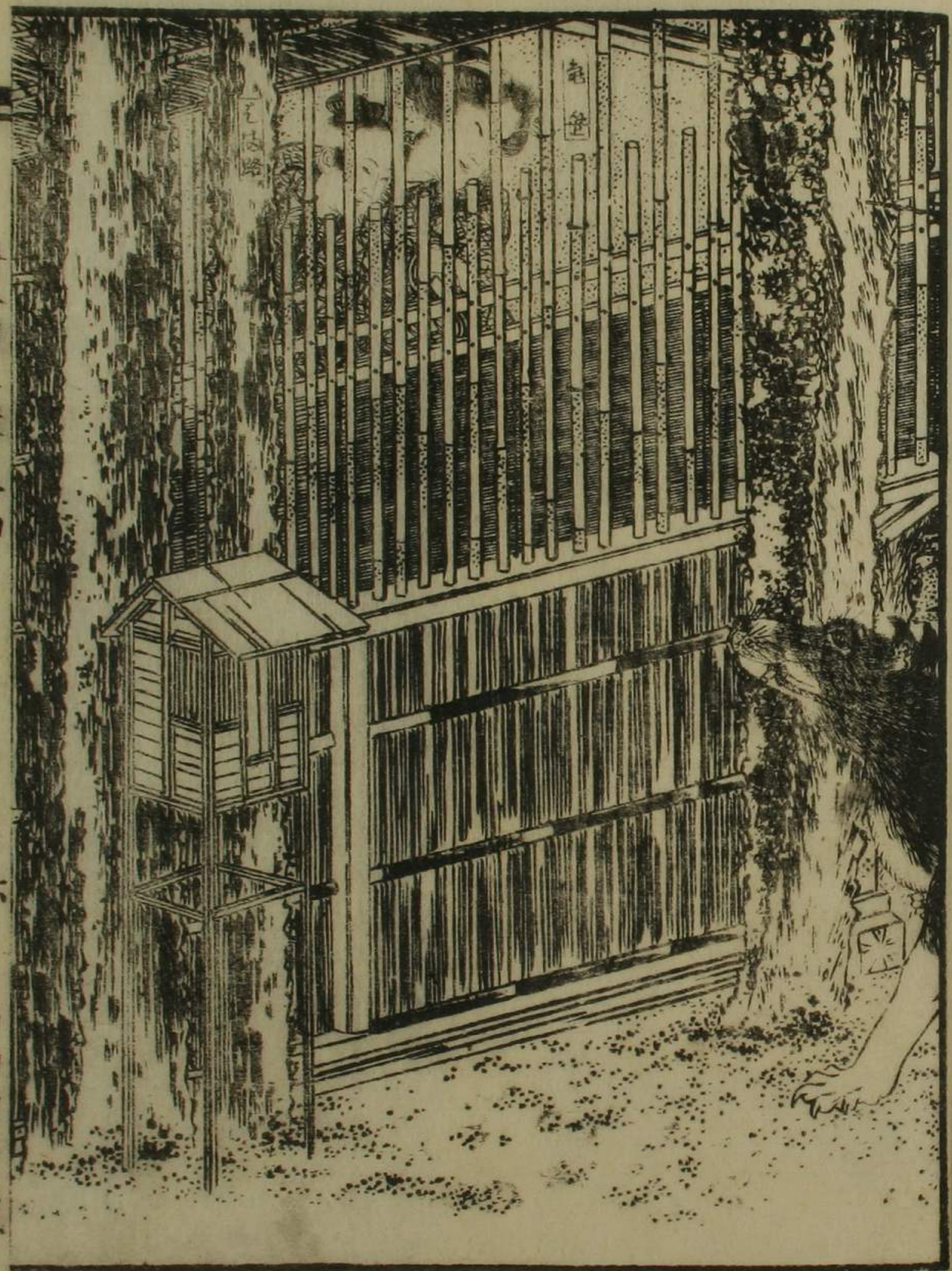
弄賣まふよ。阿波の言葉。兼巧。ゆ果を善守。のあま。家累の飽惜。氣とるく。  
 むるその人。又饋と。ふ。宴又甘き親と。い。めり。かく。濱路。が。生。育。隨。み。東  
 西をさる比。よ。糸竹の技。小師を擇む。朝。あ。夕。まで。ち。囉。舞。躍。く。  
 絶く。四都を。憚ら。む。ろ。づ。化。又。養。ひ。さ。る。生。得。る。容。止。の。人。を。さ。る。さ。ふ。  
 立。あ。さ。る。鳥の子。小鷹。あ。り。と。く。女。児。を。善。守。陰。言。を。や。二。親。ハ。わ。笑。て。  
 こ。こ。こ。嘲。る。さ。る。位。高。く。富。さ。る。世。小。威。徳。あ。る。替。る。と。さ。る。  
 招。び。と。誇。り。けり。案。下。某。生。再。説。犬。塚。番。作。が。一。子。信。乃。ハ。や。九。才。ふ。る。し。  
 久。骨。逞。く。齊。力。あ。り。現。尋。常。る。人。の。子。が。年。十。二。ふ。る。の。あ。り。角。の。又。  
 一。及。高。の。つ。ふ。る。女。服。被。せ。と。く。崔。小。弓。小。紙。七。鳥。印。地。打。竹。馬。さ。と。る。つ。  
 の。遊。び。も。あ。る。く。れ。ま。で。あ。の。づ。云。菘。菜。好。め。番。作。の。と。く。鍾。愛。して。朝  
 ぬ。里。の。窓。角。と。も。み。る。目。さ。せ。夕。も。儒。書。軍。記。の。句。統。を。授。又。あ。る。と。れ。ハ



試こころふた劔けん術じゆつ法ぽうをし教しゆふ素もとよと好よむ道をまたその技わざの進む親尚おやをぶ  
 ちば舌したを掉すままこの由ゆりくひる。父ちちのかつて母ははの東へか子このいとも  
 怜あはれ小ちのづくちを侍しやう孝かう心しんの拳動けん小こ頭あたまとく。親おやと人の稱譽ほめるまで小文ぶんの道  
 兵へいの藝年ねんも倍とその器きは稱へり短たん命めい小こあらびやと彼成なり也なり此こゝと名もよ  
 と小かくむ安やすふ旅バ夫を練め子を禁め習ひ學ぶあらうれ小あらねど緯いと  
 大おほくせやうといふとられ信のぶ乃のがむさる。よの童どう子しとさらうく入めと。母はは乃の目め  
 影かげを匿びくも竹刀たけとひふこらう日ひとさらう馬うまよさ又また騎うまと名なも小公こうの  
 つれとといふも田舎やへ小荷に駄だのこみく。借か馬まをどいのめのあらむと介まが信のぶ乃の  
 生なむ比母はは親おやと東が籠の川をる。岩いわ屋や猪ぶたのえるさふねく来る狗の子こハ信  
 乃のとも小こ大おほくくらうとく。今いま茲こゝハ既に十才さいとう。この狗いぬ脊せきハ墨より黒く腹と  
 四よ足あしハ雪より白くく。馬うま小こ所ところ三さん驢ろとも其その名なを変て四白しろとも又また与よ四よ郎らう

とも鳴なべ小年ねん末すえ信のぶ乃のよく狎なく打擲うちとも怒いらふとくひ小こ属ぞくその  
 意い小こ隨ずいふまぞ信乃のハ件の与四よ郎らうハ索鞆さくたうをうけくらち衆しゆ小こ狗いぬハ主乃  
 小こ狐この足撥あはれを早はやめく裁い返かへりく。誰たれ教しねどもその騎う座ざ鞆たうとはらの  
 弄ろう法ぽうハ稱へられるの名らむと立在たいる。技わざと姿の似けられ又。腹はらがえて  
 笑わらみもあらむと又またこの童どう子しが為体てい平へい人にんもあらびとく。賞せう嘆たんとさらうくとらふくと  
 けつと現玉たま人にんハあらむと又。碓うし碓うしと真玉たまとをまるとらい。信乃のが女の子こ乃  
 打うち扮はんふく武ぶ勇ゆうる技のままらむと里さとの總角かくホハ指さし一啣くはく陰囊ふくろとそ  
 囉ららかつてと信乃のハ物とと名ならむと彼奴やつホハ土ど民みんの子とう。遊あそび敵はたの侍の  
 小こあらむ論ハ益ととこととさらう辟はくと。トとも争つと。あらむとともこらう力もいり。  
 よのこらとらと異めり。女めの子めらる衣をの被かせられらしつふとやとこの小  
 好いくとらふの事小こ紛まどく親おやも同らむと襦袢つたのちちよ肌は膚く小こはけ。





山崎屋

六

女はまの  
 人へうつく  
 るたぬぬ  
 あらまふ犬の  
 あらまふぬ



犬塚

八代傳二軒巻四

山崎屋



被馴し女服るま不懐る氣色にうらまじけり。さゆ福不今茲秋の丁よりよまじとて  
 東へ心地例なき病の床より臥しより。鍼灸藥餌の驗る冬のをんふ至  
 ては日ゆくよる候なるまらふ番他へいじく眉うちむくくよもる夜とて  
 安く目睡む信乃へ又あされく醫師并往還る湯液をまきぬ膏を捺り  
 四表八表の物くるまじく。母の後然を辱ふらむ涙目も盈てかろくをば  
 子母の骨あつて泣白く隠ゆりく鳩尾を拵る病は筋らる親  
 子送るあつものいれはどきる孝行慈愛さるる想像さるるかてその  
 結旦信乃ハ藥劑とらふおとくめそく出くおれ後番他ハ妻の枕方あて  
 小鍋粥の塩加減しく。半肩た扇の風火火起させ居るまじく  
 色束へえくふ頭爪握常みあぬく良人の火打水汲とけける電  
 働えあふ心苦く限不ゆるか之十も足ぬ信乃が頃日大人しく

親おつて夜の目ありせむ。かやふお徳した良人とて子の子抱を受  
 ても卒おゆく道の別とてひゆるし抑とらふか此度の病著ゆえあつとぬ  
 へ死とふるえ素よつと信乃ハ祈子ゆく云云の奇瑞ありかしく奉りせり  
 子あまとも。年小信乃智ハ長く。親をうけたりの小ゆるまの賜子でま  
 せし兄小微もく。短命よあふびやとらひしんまのへけらるまじ彼が定業  
 脱とらて生育ぬのるま母が命爪換させぬと瀧の川る岩屋殿  
 神小佛も羊末より。願望竟又室を信乃ハ襪襪の中よりして蛇乳も  
 あまど風ひる軽え瘡瘡の神送り。俵子の疫を病果ても男兒の  
 怪我ありといふ七才の巔踰させ今茲にうらなが力わらうか子の久後  
 念願成就かろる命ハ惜らる悲しむ只死別とてとらハ缺る垂乳女の母ハ  
 ろくと母をこふよふよふあつて光りく。何暗くまじ生育る人久くとまらぬ







中々を然とく暮るるひやく便なり。菅菟とせり。と一刀を挿く竹杖衝く。
   
 右手一條の釣竿と一箇の魚籠を携りて左に信乃を扶掖き處へ結
   
 あり。今外面へ出ると番作と面とありて呵々とうち笑ひ大冨氏其れ不
   
 明より出く。神谷川は雜魚釣暮し。瀧の川流かへすまゝに息
   
 子が不動の籠は水垢離執り。舟へ冷徹り息を絶べ形勢をこつり一時
   
 膽怯し周章を引出し。坊へおくゆらん藁火は暖め茶服せ法
   
 師們共侶は勸ると半响許り。夕暮に復り湯飯晴りと腹と肥
   
 させ。縁故を尋まむ母の大病平愈の祈禱水垢離をとるといふ十の
   
 足らぬ童女の傳稀なる大孝行法師們も感心せしむ。求むとも當病平

愈の神符洗米をのりぬ件の瀧の寺へ遠くと。外へ入るるに定不
   
 危きるるに。かくも賢る子へ親を佛神にえらるるや母の
   
 本復疑ひる。いざ子とら受とら暮かむるや退るる病人は
   
 よくあつて要あが脊門口。竹螺鳴く。和子よ和子のあそび
   
 本よこの魚を食せんよとあがひるるに。養子人の挨拶の果を
   
 裏面より入る。かへりけり。さてと番作ハ。子の肩を杖に換
   
 階框を足引の山道踏らる。そが奥へまゝ東を縛の
   
 越丸。病苦忘る。こが子をなかり。信乃よ。親の歎え
   
 まるるよ。孝乃つても。信乃を。怪我あつた。親の歎え
   
 るる。か。て。孝。不。孝。と。親。と。思。ひ。子。の。為。に。祈。り。神。の
   
 守。り。危。を。祈。り。と。諭。せ。信。乃。の。酸。鼻。宣。ん。祈。り。



今朝醫師許妙多。茶劑ありて。還り折家者小家母の物より。信  
 乃か命の長くと勿体あること。母へ命を贖ふ神明へ祈りせむ。一驗  
 ぬや。長え病著小臥り。宣へせ。爪竊聞。哀し。限り。然るに。涙ふ  
 濡る。尾袖を。泣声と。と。啜。縁。類。つ。ぬ。り。が。親の。願望。驗。あり。  
 こが。後。ぎ。て。も。驗。あり。る。え。い。づ。この。力。を。贖。あり。て。母の。命。か。り。と。さ。ひ  
 決。め。り。て。か。り。茶。劑。を。其。如。く。密。と。措。く。年。未。母。の。信。の。ぬ。瀧。の。川。に  
 走。り。た。岩。屋。の。神。み。あ。り。り。り。返。り。る。瀧。の。糸。心。強。く。も。力。を。撲。し。一。と。ひ。の  
 死。り。る。え。その。ちの。り。あ。り。る。と。さ。て。あ。り。る。え。あ。り。る。え。糠。助。男。み。坊  
 せ。と。と。活。く。還。り。願。望。を。神。へ。受。させ。め。つ。ぬ。ぬ。や。いと。朽。を。く。か。り。り。く  
 ぬ。り。と。い。ひ。り。て。目。を。か。拭。ふ。東。の。よ。と。泣。流。る。よ。み。子。を。り。ぬ。親。の  
 る。と。と。い。ひ。死。さ。る。と。こ。が。身。を。の。り。車。あ。り。の。ハ。な。り。ぞ。と。よ。ハ。カ。才。の

椎。あ。り。る。小。賢。り。も。親。よ。か。り。り。と。祈。り。誠。を。神。明。の。受。め。り。て。瀧。壺。の。水  
 屑。と。み。り。て。還。り。け。ぬ。か。く。ま。で。命。運。つ。よ。れ。こ。が。子。の。う。ん。瓜。ん。り。り。久。後。さ。ふ  
 愚。者。く。歎。く。涙。の。と。と。と。と。あ。り。る。禁。め。が。じ。母。が。あ。り。る。か。り。り。と。と。  
 祈。り。る。悲。し。み。り。驗。あ。り。る。と。あ。り。る。ぬ。も。よ。り。と。あ。り。る。願。望。を  
 ち。か。ひ。る。と。涙。の。隙。ふ。綸。け。り。番。船。の。河。と。も。い。ら。ぬ。つ。と。と。と。使。り。る。形。改。め  
 信。乃。よ。あ。り。る。こ。が。子。の。り。の。至。孝。よ。あ。り。る。と。せ。び。慈。母。の。戒。め。を。解。は  
 ぬ。ん。や。周。公。金。滕。の。書。の。如。く。神。み。祝。く。成。王。の。病。よ。か。り。り。と。頼。ま。り。  
 儻。々。當。時。の。寓。言。欬。亦。是。至。誠。至。感。の。徳。の。と。と。物。の。命。数。も。人。乃  
 よ。く。と。呼。ぶ。あ。り。る。果。し。と。こ。が。忠。臣。孝。子。が。か。り。り。と。と。  
 孰。く。君。父。を。病。床。に。坐。せ。り。と。願。ふ。の。ハ。誠。の。至。ま。は  
 呼。ぶ。の。遂。に。感。應。あ。り。と。い。ふ。も。命。数。ハ。増。え。か。り。り。汝。幼。弱。は。て。その。才。智。







子相謀。次の日の黄昏、小卒、棺を掘出し、番作が母の墓の側、  
 葬りける。この日も信乃ハ衣裳、更を綿、とりて面頬を包み、まづ女  
 子の弁粉、母の棺を送り、見るの笑ひ、忍びあへず、  
 指、密語、信乃ハこの好景、日來ハどうもかくとあれ人の  
 愁ひ、夕のげぬ。日を朝、白後、とどくも、出さざり母の中陰  
 果、後、めて父、云云と送葬の日、乃、告、抑、吾、倚、ハ、男、子、  
 る、女、子、せ、ゆ、中、う、ん、吾、倚、が、う、ん、厭、み、足、る、親、さ、織、ら、  
 朽、た、る、ゆ、ゆ、と、の、故、あ、ま、ま、あ、り、あ、せ、め、と、生、平、あ、あ、  
 怒、氣、合、向、番、作、う、ち、笑、ひ、そ、恨、る、ゆ、ゆ、あ、る、さ、が、先、こ、  
 子、を、ま、せん、汝、兄、三、八、中、襦、袢、の中、み、る、死、り、か、て、汝、  
 母、ハ、こ、子、も、育、び、妻、も、や、ま、死、び、り、は、俗、の、慣、せ、み、こ、び、て、

女の子、う、ま、あ、る、と、婦、人、の、愚、癡、も、あ、り、  
 こ、も、その、意、任、し、則、信、乃、と、名、つ、け、ハ、如、此、の、美、を、取、り、  
 の、忌、嫌、を、信、し、僻、事、小、似、と、も、ゆ、ゆ、と、許、さん、や、む、と、今、男、兒、  
 十五、歳、あ、る、女、子、小、比、へ、額、髪、を、剃、落、さ、せ、袂、長、衣、被、て、紅、裏、  
 袴、さ、し、女、子、比、へ、燈、据、え、又、櫛、并、ハ、婦、女、の、さ、ら、  
 或、ハ、烏、帽、子、の、尻、を、昂、せ、ん、む、ハ、男、子、由、挿、さ、入、介、  
 と、こ、こ、あ、る、あ、る、と、儼、と、忽、と、渾、沌、氏、を、敗、ひ、  
 子、で、知、稚、う、る、汝、由、その、年、二、八、は、至、  
 知、る、あ、る、彼、怒、る、その、知、足、  
 信、乃、ハ、忽、地、疑、ひ、解、し、且、不、就、彼、  
 飲、と、る、が、哀、慕、泣、顔、  
 退、き、ぬ、





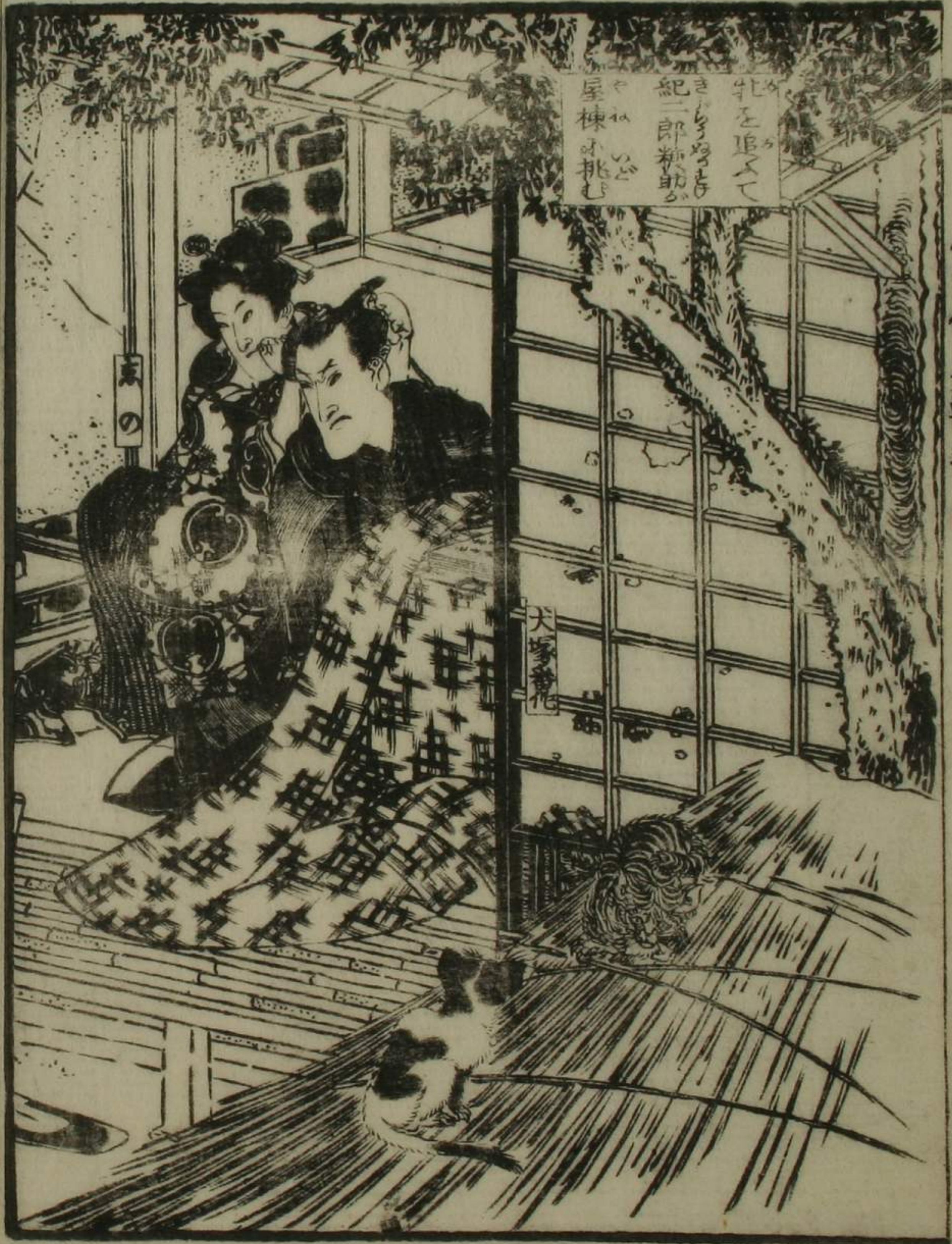




八代傳二軒巻四

十四

○山手堂



北五郎  
紀一郎  
屋棟才

八代傳二軒巻四

○山手堂



差別る能を妬むの病あると愛惜する心憚るとふく人を嫉妬と素  
 よと已見織るる人共似たるるもあつるもさし不番作が犬與四  
 郎はこの年十二小なりしくり里は稀なる老犬あはるとも齒並毛の澤衰を  
 氣力まさしく健まはる一村の群犬とどがぬ威服せしむ。絶て頭を出  
 一ゆぎ墓六こは成も妬くやひて年未どり替掌かえて幾頭とく大と  
 養ひしふるふ四郎小當伏らは或へ即死ともあつて或へ疵を被りく  
 廢犬とつるもあはる墓六怒を憤りて豫て小廝又ころ成るさせと四郎と  
 つらとらら主後棒を内し左右より打んとさるふと四郎は飛鳥の如く飛  
 退る走り過る下ぶも打るはは逼り打ば卻啖著人を勢ひるれば  
 小廝木の穴竊みあはると後らと四郎が出入りえとと主あつげを墓  
 六も根旁とく遂ふ又犬を畜つて是より指する人又對ひく大八つを

成るとく家毎は養物つと今も犬の物さふらと主と犬と盜  
 兎小尾を掉て押さるもあはる。門成る後らとらるる家のは邊は  
 糞とらして人小詰さるのそら。さし畜つたりの猫さる。日えて農家の  
 穀物小鼠を防ぐを第一と成猫さるはひる小せん。よとくは犬を  
 せと猫を養人とさる。逸物あはるさせるとある人毎ふとくある人  
 雉毛の肥る牡猫を墓六は贈ける。この物とらるとは愛惜する性るが  
 墓六はひつるもさる。龜條濱路は鼠愛しく真紅の頸環くけさせく。  
 送代小勝よりち載或へ抱き或へ懐みて半的由地より置と墓六は猫の名を  
 何とゆべと決めゆつ。その織人小問へその人答ふ。むく一條院のおん  
 猫へ命婦のおとと召とる。翁九といふ犬が件の猫を逐へる勅勅家  
 りのこある。この外小猫のよび名を物小記せし成るる主の隨意名つけ







狹小堀埋廟のわらふふ一條の小川あり。こゝに至り紀二郎ハ途穴窮りて慌  
 忙引之々々逃人とまはると四郎ハ跳かると猫の項を合喙とらえて  
 只一當りぞ嚙殺を當下小廝亦迫つたて彼よくと叫ぶのこゝも一條の棒を  
 合後小石を把り打ちけり走り著人とまはり奴も與四郎をかくと途穴  
 横より竹地とらる失おけり縛の騷動大々こゝろ移る彼糠助を背より牙  
 暮六ハ縁由をせくとそが棒を引提額義との小廝の年十二ふりる奴  
 ねく後走ふ来つとど紀二郎ハをや嚙殺さる猫の仇るる大のこゝろ縛の  
 越爪尋はる番代が犬與四郎が呷るると小廝亦詳小告り六墓六ハ踏然と  
 圓まる目小涙を流しと小廝が救ゆるが恨と且怒り且罵り棒のし地  
 上をうち敲たつと六彼廢人かくおぐとを侮る彼奴が妬へが妻あり  
 三月六嫡家を繞つとるを便長村長ハ彼奴が不礼をいへばさうとるこゝろ

養犬あり主は做りて。こゝ愛猫を殺害し飽ちて。目も赤唇も。眼前小  
 犬と殺して紀二が怒爪雪めむ。この熱腸を冷ど。汝ハ二人ハ糠助のつとも  
 番代が宿所は赴け彼畜生を牽ぎると本意その口状ハ箇様。ヒ細小  
 説示せば先小本は。西個の小廝ハさう果て遠く糠取と。行る  
 番代許赴け六墓六ハ額義又猫の亡骸をうら抱せ。るは縛くと。まら  
 罵止よぐ還り。今このこゝろも掛ける橋を。敷川の猫役橋。いそ  
 紀二が故事ハ因るべ。却説墓六が西個の小廝ハ糠助とも小犬。しが宿  
 所ハ赴け番代又對面。紀二猫が最期の顛末與四郎犬が残言の爲  
 体を演説し。主人墓六この年来野の犬を畜といふとも貴野の犬ハ傷られ  
 或ハ即死しつるも。あつと。墓六ハるは穩便の美を存し。一ト  
 とも恨爪述を送る畜犬あれ。バ。争ひの端とる。是ハ小能。うれと



うるとと思ひ入るく犬を畜ま。婦幼の愛る隨ふらる此より猫と養ふ。  
 こゝ又貴所の犬の爲ふ一朝又失り。友犬の戦ふのつゞき孤り。一定め  
 ごと猫へ犬と争り。いふおそく避るめ。あつる瓜るなと追ひ  
 まれを殺さ。犬小罪あり。件の犬をさうして猫の仇を報ふべ。婦の起る  
 糠助男が宿所のほらとゆてのる。且人とりて。いふおそく  
 犬を遯与。主人の口状かくの如くと辯有。速に六糠助の我方ひとり。  
 困り果る。ありちあ。番代よろち對ひ。村のさく。と中平ゆ  
 人のいふと。怪有る。とふわづら。いふおそく。權便の返答あり。  
 互併も。難及人より。一に挨拶のま。といふ。番代ち笑ひ  
 かのとの。つして和殿の難及。及ぶ。使者の口状。その意。瓜得。いふ。不  
 理。あふ。いふ。と。人倫の。人。畜生。ハ五常を。と。絶く。法度と辨

こゝを強え。又征せ。と。小ハ大。服せ。さ。猫ハ。鼠を食へ。と。大。あ  
 絶く。勝。と。犬ハ。猫。又。傷。と。由。材。狼。と。戦。へ。と。か。る。ら。さ。さ。鼠。り。の。足  
 ざる。所。形。の。小。犬。又。よ。ほ。め。の。もの。犬。を。猫。の。仇。と。せ。猫。を。鼠。の。仇。と。せ。ん。と。を  
 仇。と。死。を。賞。め。人。倫。の。人。あ。畜。生。の。爲。小。律。瓜。と。報。讐。言。死。刑。の  
 制度。あ。る。よ。り。か。ま。つ。呼。ん。且。猫。ハ。畜。ま。と。席。上。小。あ。と。今。その。こ。ろ。瓜  
 失。つ。漫。小。地。上。を。奔。走。犬。の。爲。小。命。瓜。隕。と。死。地。小。入。る。あ。あ  
 瓜。又。犬。ハ。畜。ま。と。地。上。又。あ。亦。その。所。を。失。ひ。と。席。上。又。起。居。せ。ば  
 人。又。く。尾。を。許。さ。ん。や。か。犬。足。下。の。宅。地。小。赴。死。座。席。又。到。る。と。あ。人。打  
 殺。と。と。怒。り。猫。の。死。を。賞。め。と。つ。犬。を。遯。と。さ。り。歸。て  
 こゝの。の。う。く。長。又。使。多。使。大。養。と。鷹。揚。又。辨。舌。水。の。流。る。如。く。  
 理。又。通。る。返。答。又。兩。個。の。小。廝。ハ。唯。と。猫。小。代。衣。瓜。被。せ。と。鼠。を。叩。く。







さぞ志気あるものるる月ごろ主の御好意傷いそふあつ陽よその意よ  
 懐つごこの日も件の討較をいと嗚呼ありとむめ思はざるふあつ候ども  
 ろあふ遠くま王出が遠くハゆりぞ且しく久王事ある途め追はさ  
 ゆらゆら彼宿所まぐい西死て足ふ隸助ゆ宿へも還るを彼人ハ去年の秋  
 の貢の債ありし使王いつて村長を敵みしく自滅を招きゆた捨置  
 ろふとも口利とゆいゆとむつたゆ先くまふ索ゆらざるほ索ぬゆりや  
 と真一やふあらゆらゆら墓六つてうち点既現汝がいゆと渠ハ債ある  
 めんさ且ぶその力を愛せび小が為こつたるゆえゆりゆりやゆゆとと  
 さとも彼犬ハ四足あり主の番作ゆ似るゆもあふと要時ハれ撃た  
 めくと日を懸るゆ出あるゆそのと敷地へゆびゆと刺殺さん易うゆ  
 竹槍の準備懈るとその子配を傳へさせ與四郎犬がいで来るゆあゆより

日ゆく候るる却脱莊客隸助ハ墓六が討較を番作ゆとせんとゆゆ別と  
 告むと遠くま王出犬塚が宿所へゆゆと墓六夫婦がゆひつととと  
 中言さるゆ似とゆとも某村長ゆ債ありと彼人  
 告ゆゆと告ゆゆと告ゆゆと縦糸糸の親類とゆゆ長の内室ハあゆの  
 好ゆ畜生のゆゆあゆとゆゆと密瓜結人と好ゆと絶ゆゆゆゆゆゆゆ  
 彼與四郎ハ近郷へ遣り又犬がゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ  
 解るゆこの後ハゆゆと密語ハ番作ゆゆ沈吟ゆ今よゆゆゆ和敷が親  
 切飲びゆゆゆゆゆゆとゆゆと墓六園宅の智囊を拂て遠ゆゆゆ  
 とととこれ露なるゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ  
 らハハコが足蹙と近來ゆゆゆゆ病ハ理ありゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ  
 且畜生ハ智あゆと智あゆ安危をまゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ













山崎屋

計三



山崎屋

計三



知る候待と之いも門の扇を鎖さしては絶く出づる路あり。犬はいと苦  
 しけふ吠嚙く声せえふけしむ鳴呼と四郎ハ殺さるる人のとてうたつ  
 るてけり。とせらとてちん、杖ヲ推乃くる。背門の「あふふささ」とかゝく  
 あふたふあふぶま今ハ救ふふしう。と心ひ絶く、宿所は還里已に死  
 るぞ云云と匿もつ又告ぐ、番飛怒るる氣多る。つくくと使て噴  
 息、汝逃る角とりといへども人よりくる才学ある。その智よあふく不  
 足ん。汝とつりハ人を走らざるの失し。こが嫉はころ僻了。其金六ハ能く媚む  
 小人あり。汝謀むと犬を打とも。渠豈そは小嫌のく憤を解りのるんや  
 走らんとて中するもさより。ハを追入るく替せハ不覺小恨、不覺よあふく  
 彼より犬を咬入る。殺さるるがつらむ。と心ひ悔しく思ひ入る。四郎ハ  
 死ハ不便の事とも惜て今さか詮るるをとなりのる。風声を聴定れんよ。

といふ言ふいさ。絶らとて件の犬ハ血ふ塗し起り轉つ庭門より。躍くと走  
 り又アま。そまも撲地と臥し。信乃ハを中へ入る。あふ痛は  
 與四郎が還りゆ。といひあふま。走りま。勤且。番飛ハ遠く柱に  
 推乃ま。為と起。縁類又出て。とて。初。鎗痕と受る。其ハ知ふ  
 敷。是を還里ハ老ても逸物。且。雖。然。生。じ。日。蔭。へ。牽。入。る。ゆ。せ。ま。と  
 の。あ。信。乃。ハ。こ。ろ。ろ。く。縁。類。の。下。小。藁。藪。布。く。瘦。肩。る。犬。を。扶。卧。させ。阿。與  
 四郎よ。苦し。飲。汝。小。危。殃。あ。せ。と。く。こ。是。如。此。と。小。謀。一。と。汝。と。脱。路。を  
 と。り。夫。ハ。死。る。人。の。背。門。より。入。て。少。ハ。命。を。損。を。め。ま。と。は。吾。倚。の。慰。あり。  
 よ。る。る。と。身。を。責。む。水。を。口。に。沃。き。入。り。其。あ。死。痕。を。揮。う。け。く。ま。あ。あ。あ。あ。  
 走。り。勤。と。も。又。生。づ。う。ハ。こ。え。さ。と。け。り。さ。る。初。小。墓。六。ハ。憎。一。と。多。人。と。四。郎。が  
 ち。ん。背。門。より。走。り。入。り。子。舎。へ。登。り。く。か。て。小。廬。は。門。戸。を。鎖。せ。上。後。ま。ぐ。



五六人準備の竹鎗袂と追ひ出。駈立く刺留人と志つた件の大は足をかけて  
 倉下を潜り脱路を求めし出入とさるふ前後の門戸鎖と直に進退既と穴の  
 了く。数ヶ所の痕を受るが。吼を狂ひく伏の驚れむ板屏の下突破す。く  
 外面へ中へ。彼逃もると墓六主後門扉を開き追蒐へが。そのとき  
 とく引之を當下墓六意氣揚くと小廝ホと分けてけんの働れ抜群ん  
 根ハ犬を刺留も。さらは深痕を負せし。必途まう驚え入る。そのあまや  
 と鑿貌と鑿を庇まうけく。縁煩小尻をからし。龜條へ背より弱とゆれん  
 あがた立げるといみけ小紀二郎が雙言をかうやく復し。と。おひは。おまを彼畜  
 生へ猛くとまふ死さ。は。汝連ハ怪我せむや。と。向ハ小廝ホ祖を收める何とも  
 つま。ふ。宣ふ如く猛死犬も。吾們が。ふ。及。さ。し。狐主の光りて。ど。か  
 かう中。痛癢を負し。といふ小墓六も。と。鼻高かりふと。め。し。駈。つ。

裡面みぞ入ふる。そが中。小額蓋の。小廝ホと共侶。み。さ。さ。さ。の。大。を。追。つ。  
 畜生は傷けり。と。妻。子。は。鑿。る。主。の。白。狐。つ。と。目。送。り。て。冷。笑。ひ。つ。退。死。ぬ。  
 且。と。墓。六。ハ。龜。條。を。一。室。小。招。れ。蒸。襖。引。立。さ。せ。く。額。合。し。声。を。潜。先。  
 今。小。廝。ホ。が。い。ぬ。や。つ。小。番。地。が。犬。が。あ。り。る。背。門。と。ま。ま。と。入。り。つ。る。も。  
 信。乃。が。追。入。さ。れ。ば。ら。の。と。その。と。れ。件。の。小。孩。児。が。犬。を。責。め。云。云。と。罵。る。狐  
 伎。の。あり。その。信。乃。一。人。が。所。あ。る。と。糠。助。も。共。侶。は。彼。犬。を。打。つ。とい。へ。  
 その。故。た。く。ハ。あ。ま。と。今。その。ま。ら。狐。猪。も。小。番。地。陽。の。剛。氣。示。せ。ど。  
 又。づ。う。争。ひ。が。な。ら。な。ら。ず。と。そ。の。子。は。分。付。と。犬。を。こ。の。へ。送。り。し。  
 る。ん。この。勢。ひ。を。脱。ぎ。し。て。う。ま。く。謀。ら。ハ。招。き。ど。く。番。地。は。帰。伏。さ。せ。彼。村  
 雨。の。二。刀。も。遂。に。こ。の。へ。入。る。と。あ。ら。じ。こ。の。大。塚。の。送。蹟。な。れ。家。譜。も。傳。へ。ど。  
 舊。記。も。あ。り。通。地。の。長。女。と。そ。の。の。夫。と。い。ふ。の。こ。の。小。鎌。倉。の。成。氏







